

トピックス

赤沢のチョウセンバカマ

平成 22 年 11 月 22 日朝の出勤前に、出張中の上司から「伊東市赤沢で珍しい魚が獲れたらしいので急行せよ！」との連絡が入りました。重い魚類図鑑を 3 冊担いで赤沢港に向かい、カメに活かしてある魚を見てみると、そこにはなんととも見たことのない魚が待っていました。

連絡をくれた武谷さんの話では、赤沢沖の水深 70m でアマダイをねらいで釣れたもので、長く漁師をやっているが、こんな魚見たことないので新種に違いない！とのことでした。早速、魚類図鑑のページをめくって似た魚を探すと、それらしきものを発見。チョウセンバカマ、聞いたことはありませんが、長い背びれと模様から間違いないようです。残念ながら新種ではありませんでした。せっかく活かしてあるので、このまま下田海中水族館に提供することになりました。

分場に帰り一件到着と思いきや、写真も長さも測っていないことに気が付き、引き取り先の水族館に写真撮影をお願いしました。水族館では、キンメダイとノコギリザメの水槽と一緒に展示されており、底あたりをゆっくり泳いでいました。なんとか写真を撮り、担当者に話を伺うと、この魚が水槽に入るのは 20 年ぶりくらいで、魚の状態は良いので餌さえ食べれば生きるのではないか、との話でした。生きていたので長さや重さは測定できませんでしたが、全長は約 20cm でした。

図鑑では南日本特有の種で数は少ないとあります。インターネット上では関東近海でいくつか採集報告があり、今回のようにまれに見つかることがあるようです。採捕の報告をいただいた、宝進丸の武谷さんに感謝いたします。



(高木康次)